

連続ブックフェア「大事に売っていきたい本」開催記念 トークイベント

連続企画・第3回

- 日時： 5月24日(金) 18時開場・18時半開演
- 場所： 岩波セミナールーム (岩波書店アネックス3F) 千代田区神田神保町2-3
- 問合せ・事前申し込み： 岩波ブックセンター信山社 03-3263-6601
- 入場： 無料
- 定員： 50名 (お電話予約をお願いします。定員になりましたら受付を終了します)
- 共催： 岩波ブックセンター信山社 + 「書物復権の会」

[テーマ]

美学のパズル

芸術をめぐる思索は時代とともに変化しています。ルネサンスを経て、芸術は「普遍的で永遠な価値」を造形する「美しい術」と位置づけられました。しかし20世紀以降、近代芸術の定義が解体されるにつれて、美や芸術にかんする「美学」の思索においてさまざまなパズルが浮上します。美からもっとも遠いたんなる便器が、どうして芸術作品になることができるのか？ 完全な贋作が存在するとして、真作を見る経験と違いはあるのか？ 街路樹がプラスチックの木で、なにが悪いのか？ 日本の美学を牽引してきた西村清和先生が、わたしたちの日常生活の中に見え隠れする“美学のパズル”を説き起こし、常識を暴く美学の快樂へと誘ってくださいます。

講師

西村清和 氏 (にしむら・きよかず)

■プロフィール■

東京大学名誉教授。美学者。『遊びの現象学』(勁草書房)でサントリー学芸賞を受賞。おもな著書に『プラスチックの木でなにが悪いのか』『フィクションの美学』(以上、勁草書房)、『現代アートの哲学』(産業図書)、『イメージの修辞学』(三元社)、『電脳遊戯の少年少女たち』『視線の物語・写真の哲学』(以上、講談社)など多数。

【関連書】

ロバート・ステッカー／森功次訳『分析美学入門』(勁草書房)5月刊行

「美しい」とは？ 芸術とは？ 作品の価値とは？ 自然美やギャング映画、前衛建築などを例に、感性をめぐる現代英語圏の論争を丁寧に紹介する、最先端の入門書！

西村清和『プラスチックの木でなにが悪いのか』(勁草書房)

西村清和編著『日常性の環境美学』(勁草書房)